

獣医アトピー・アレルギー・免疫学会主催（開催日時：2014年8月23日(土)、24日(日)）

## 第1回サマースクール 講師の声

### ●講師・久山昌之(久山獣医科病院 副院長)

サマースクールが、盛況のうちに終了しました。あまりにも熱く、濃密な2日間でした。張り切り過ぎたせいか、若者の熱意に当てられたのか、帰宅した時にはもうヘトヘトで、昼間から風呂に入り、そのまま前のめりに倒れたまま夜まで死んだように眠りました。翌月曜日も、頭も身体もまだまだ回復せず、何とか社会復帰しました。

僕は普段から学生の方たちと接する機会が少なく、講演や実習などで個人的にお付き合いするだけです。そんな中で、今皆さんが獣医療あるいは獣医業に対して、どのように感じどのように想われているか、興味があり、不安がありました。

今回のサマースクールは、若い獣医師に向けての我々の意思表示でもありましたが、その興味や不安を先輩である僕たちがどのように応えられるのか、その試金石の企画でもありました。そして、できれば僕たちも若者たちから教えられ、刺激を受けたいという欲求もありました。

講義を通して、その後のディスカッションを通じて、懇親会や二次会での本音のぶつけ合いを通して、硬軟取り混ぜた濃密な話から、どれだけ僕らの想いが伝えられたのか、正直自信も確信もありません。だけど、やるべきことは、伝えるべきことは伝えたという充足感があります。

それ以上に、若手獣医師のその熱意や想いをしっかり感じる事ができました。まだまだ先が長い獣医師生活ですが、彼らが頑張り過ぎず、だけどその想いは持ち続けていただけたらと思います。

正直、講師であり運営側でありながらめっちゃ楽しんでしまい、申し訳なく思っていますが、元とは言えば、人が集まるのだろうか、僕らの熱意が空回りしないだろうか、どのように受け止められるのか、正直不安ばかりでした。が、ご参加頂いた講師の先生方やボランティア参加の先生方のおかげで、とても良い会になったのではないのでしょうか。

これから参加者の方々の感想や批評を頂き、総括と反省、検証を行わなければいけません。結果を真摯に受けとり、さらに改善していかなければいけません。

僕が担当したのは、「開業獣医師とは」という内容でしたが、諸先生方には「獣医師とは」「研究者とは」「大学教員とは」「企業獣医師とは」「起業とは」という様々な獣医業の講義を通して、先生方の想いや信念を話していただきました。3時間の予定が4時間強でも足りないくらい、講義も質疑応答も盛り上がりました。今回は、志を同じくする仲間の獣医師に講師をボランティアでお願いしたため、畜産業や公衆衛生分野での講師がいらっしゃらず、その点が足りない部分でもありましたが、講義はどなたでも良いというものではありませんし、2日目のディスカッションでその不足は補えたものと思っています。ただし、この部分は今後の課題としなければいけません。

獣医師の職域は、実はとても広く、小動物臨床が注目を浴びてはいますが、誤解を恐れずにいうと、小動物臨床は動物を飼っている方たちだけへのサービス業と位置付けられてしまいます。悪く言えば、社会生活に絶対に必要ではないと言われかねないものでもあります。もちろん、動物の生命を救うことは、人と動物を守る行為であり、価値のある仕事であることは間違いありませんが、実際の社会生活には公衆衛生分野に活躍する獣医師は必要不可欠であり、食肉食鳥分野、食品衛生、

環境衛生、防疫・検疫、Zoonosis、動物愛護・管理・・・、多岐の分野にわたります。畜産業も、産業としても食品供給としても重要な分野です。

先生方の講義は、僕にとっても非常に勉強になり、参考になるものでした。獣医師たるとはどうかという壮大なテーマから始まり、必要とされる見識と胆識、研究者の矜持、大学教員の気概、企業獣医師の苦悩と信念、起業・経営の苦勞と反骨心、そして自律。お互いには、気恥ずかしくあまり普段では熱く語らない内容でしたが、この機会にそれぞれの先生の想いを再度知ることができ、また感心することも多く、得ることがたくさんありました。内容も分野も異なる講義でしたが、お互いに講義の打ち合わせをしたわけでもないのに、そこには一本の流れが出来ていて、その意識の根源を垣間見ることができることに、改めて志を同じくするということの喜びを感じました。

僕らは、教え指導する立場にいますが、今でも学び、教を乞う立場でもあります。それはこれからも同じです。今回ご参加いただいた獣医師さんたちは、僕らの同志であり、ライバルでもあります。未来を見ることも大切ですが、まずはしっかりと足元を見定めて、まずは自分の限界に挑んでもらいたい。まずは自分の小っちゃい殻を破ってほしい。もし今回、尊敬できる獣医師に出会えたのなら、今はその獣医師に負けていてもいい。でも、その獣医師の学生時代に、同じ世代で、負けないでほしい。そして、20年後には、今回出会った先生に負けていない獣医師になってほしい。誰もが学生で、誰もが若手だったことを忘れないでほしい。

獣医業という職業は、どの道に進もうとも生命を扱い、人の感情に触れる仕事です。自分の力量が、直接的に結果につながり、自分自身の評価だけでなく周囲からいつも厳しい目と評価にさらされる仕事でもあります。時に称賛され、尊敬され、時に批判や誹謗中傷にもさらされます。場合によっては、理不尽な体験も少なくありません。

ただ、そのようなこと以上に、やりがいや誇りを持てる職業であることも断言できます。獣医師という職は、就職の時に決断するのではなく、大学の選択時にすでに進もうと思いつく道で、皆さんの想いは他の職種よりも大きく重いものだと思います。また、どのような獣医業でも、相手から対価を頂いた末にさらに感謝されるという職業であるということも、稀有なものであると思います。

生命や生活に密着する職業は、それだけ重い責任と義務を負いますが、同時に自負も誇りも持つことができます。

今回の体験が、皆さんの未来に少しでもお役にたつことができたのなら、これ以上の喜びはございません。

●講師・増田健一(動物アレルギー検査㈱ 代表取締役)

#### 【感想】

第1回目のサマースクールは予想外の大成功を収めることができた。思えば何年も前の事だが、確か山口大学の水野教授、岐阜大学の前田教授がまだ教授になるずっと前の頃、居酒屋かどこかで呑みながら話していたのがこの企画の最初だったと思う。それから何年か経って、長谷川篤彦先生を中心として、人生学を学ぶ会、篤行塾が有志の間で立ち上がり(最初は長下村塾と言う名前だったが)、その中でも同じようにサマースクールを企画したいという案が持ち上がった。これもまた呑み会の席である。篤行塾のメンバーは獣医アトピー・アレルギー・免疫学会のメンバーでもあるの

で、それでは、ということで学会に協賛をお願いし、会員の皆様にもその主旨に賛同していただいた。さらに各社協賛企業様の力添えがあつて、数年越しでようやく今回、サマースクール開催に至ったが、もともとが呑み会での案なので、正直、本当に開催してどうなることかと不安な部分が多かったのは確かである。

サマースクールでは、「獣医師のあるべき姿」を長谷川篤彦先生に解説していただき、その後に我々の業界の各分野（動物病院、企業、大学、研究、起業）の現状について5名の講師の先生方に説明してもらった。講師の先生方はランダムに選んでお願いしたにも関わらず、さらに、事前の摺合せをしていないにも関わらず、奇しくも皆のプレゼンテーションにおける一貫したコンセプトが「獣医師にとって人間性の形成が重要」であったことは驚きである。「人間性の重要性」はどの講演の中にも含まれていたから、若い方々には獣医師としてどの職についても人間性が最も重要であるとのメッセージが十分に伝わったのではないだろうか。

懇親会や二次会でも、若い人たちと年長の人たちの交流が盛んに行われ、翌日午前中にもグループ討論会で各分野の職について意見交換が行われた。そんな光景を見ていると、ふと、我に返った。この業界の事を世代を越えて考える、こんなに濃厚な時間が我々の業界にこれまでであったらうか。

帰るとき、若者たちそれぞれが昨日来たときとは全く違った顔つきをしていたのが印象的だった。みんなの目が輝いていた。来年も必ず開催すると決めた。

#### ●司会・小沼 守（大相模動物クリニック）

第1回サマースクールは、これからの獣医業界を支える未来の獣医師のために、獣医療に携わる社会人との交流する機会を設ける企画で開催されました。ご参加いただいた学生さんは、講演では静聴し、与えられた課題に対しては事前に調べ、発言する内容をメモをとり、大変真摯な対応に感動しておりました。また、懇親会では社会人の先輩獣医師に積極的に対話をしており、我々のようないわゆる大人の獣医師が心配していた学生さんの姿はほとんど見受けられませんでした。逆に若者のための会であったサマースクールで一番刺激を受け、楽しんでいたのはそのいわゆる大人の獣医師でした。そんな中、将来の自分に自信がなく不安を抱えている学生さんがいらっしゃいました。その学生さんに僭越ながら「怖がらず自分を信じて悔いのないようないろんな世界をみれば自ずと答えがでます。信じてあげられるのは自分だけですから信じてあげてください。」と伝えました。これは、他人に決めてもらったものは、失敗したときすべて他人のせいにして逃げの人生を送ってしまう危険性があるため、自分の人生はすべて自分で決めて欲しいということです。自分が決めたことなら失敗しても悔いはないですから。今回、獣医業界で特にがんばっている先輩獣医師から生の現場の情報や、人生論を教授され、刺激を受けた未来の獣医師が、どういった大人の獣医師になるのか大いに期待しております。また、来年もまた多くの学生さんにお会いできることを楽しみにしております。最後に、不安はあったのに思い切ってご参加いただいた学生さん、忙しい中ご尽力いただいた長谷川先生はじめ講師の先生方、ボランティアの先生方、協賛していただいた個人や企業の皆さまに厚く御礼申し上げます。■